

# 学校法人天理大学

## 平成24年度 事業報告書

### 1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科の名称および入学定員と学生数

#### 【天理大学】

平成24年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
人間学部	宗教学科	50	230	210
	人間関係学科	80	320	361
	計	130	550	571
文学部	国文学国語学科	40	160	186
	歴史文化学科	50	200	225
	計	90	360	411
国際学部	外国語学科	170	510	497
	地域文化学科	180	540	551
	計	350	1,050	1,048
国際文化学部	アジア学科	募集停止	150	131
	ヨーロッパ・アメリカ学科	募集停止	200	223
	計	募集停止	350	354
体育学部	体育学科	200	770	868
総合計		770	3,080	3,252

#### 【天理大学大学院】

平成24年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
臨床人間学研究科		8	16	17

#### 【天理高等学校】

平成24年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
全日制課程（第一部）	普通科	※ 520	1,560	1,201
定時制課程（第二部）	普通科	※ 144	576	417
総合計		664	2,136	1,618

※全日制課程の募集人員は440名、定時制課程の募集人員は108名

【天理中学校】【天理小学校】【天理幼稚園】

平成24年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	收容定員	学生数
天理中学校		200	600	586
天理小学校		※ 125	750	500
天理幼稚園		50	200	111

※募集人員は約 110 名

以上、大学から幼稚園までの学生数の総計： 6, 084名

(2) 役員・教職員の人数

平成24年5月1日現在

部 門	役 員	教 員		職 員		計
		専任	兼任	専任	兼任	
法人	17			64	28	109
天理大学		144	189	66	53	452
天理図書館				38	14	52
おやさと研究所		7		1	2	10
天理参考館				27	2	29
天理高等学校(第一部)		75	10	28	97	210
天理高等学校(第二部)		33	4	23	44	104
天理中学校		34	3	5	14	56
天理小学校		26		5	2	33
天理幼稚園		14		2	1	17
合 計	17	333	206	259	257	1,072

## 2. 事業の概要

H25.5

本法人においては、「陽気ぐらし世界」の実現に寄与できる人材、すなわち「よふぼく」の育成を目指す「信条教育」を核とする学校経営に努めてまいりました。

毎年実施しております「信条教育講習会」は、仙台大教会長、加藤元一郎氏を講師として、管内全教職員を対象に施設別に計3回開催しました。さらにまた、平成24年10月の「論達第三号」の発布を承けて、次年度予定の信条教育講習会を前倒しする形で、天理大学は飯降政彦学長に、天理高等学校・中学校・小学校・幼稚園は安野嘉彦理事長による講習会を実施し、論達の内容と教祖年祭の意義について管内全教職員に徹底を図りました。加えて、教育現場における本法人教職員の心の持ち方の基本を明文化した「めざす教職員像」を、教祖130年祭に向かうこの旬に改めて制定し、建学の精神のさらなる徹底を図りました。

その他の研修会として、各施設での自主的な各種研修会とともに、本法人主催で新任者研修会、現職研修、人権教育推進研修会、公開授業研究会等を実施し、教職員の資質の向上を目指しました。

一方、学校経営をめぐる厳しい環境下にある本法人の財政基盤強化のために前年度設立した事業会社「(株)キャンパスサポート天理」は、当初の計画通り「施設管理業務」「物品納入サポート」「損害保険・生命保険代理店業務」を中心にした業務を行っており、初年度から所期の成果を挙げる事ができました。逆に、改正された税額控除制度を活用する寄付金募集は、件数的にはあまり多くなく、何らかの強化策を検討しなければならないと考えています。

施設・設備面では、天理中学校ではエレベーター設置、天理高等学校では放送設備更新、同校北寮およびみのり寮の空調・給湯設備の改修、またPC教室のパソコン更新工事、天理大学ではそれまで天理図書館分館としての図書室を改め、「情報ライブラリー」として独立させるための諸改修、あるいは4号棟44A教室の机・椅子の更新、ラグビー寮の移転改修を行うなど、それぞれの教育環境の改善に努めました。

その他、本法人教職員の活躍としては、8月のロンドンオリンピックに、柔道男子100kg級で穴井隆将（法人総合企画部）が出場し、同柔道日本男子代表監督として篠原信一（体育学部准教授）が派遣されました。また、11月、天理幼稚園の湯川民世園長が文部科学大臣表彰（教育者表彰）を受けました。

以下、平成24年度の各施設の主な事業内容を報告いたします。

### 【天理大学】

#### <大学改革>

本学創立90周年（平成27年）に向け、創立100周年を視野に入れた中長期にわたる本学のあり方を具体的に思索するため、「基本構想委員会」を立ち上げました。さらに同委員

会の下に、「施設設備」「教学協働」「大学院増設」「学士力強化ーアスリート学生対策」「学士力強化ーカリキュラムの検討」「事務局体制」の6つの小委員会を設置しました。各小委員会では検討が重ねられ、3月に学長へ答申がなされました。

「国際学部」開設（平成22年4月）の際に、文部科学省へ届け出た履修科目の開設状況および教員の就任状況等について、その後の履行状況を同省に報告しました。

自己点検評価関係では、平成20年度の認証評価で（公財）大学基準協会より提示された指摘事項について、7月に「改善報告書」を同協会へ提出しました。その結果、同協会からは平成25年3月に「改善報告書検討結果通知」により、本学の取り組みについて確認しましたとの連絡を受けました。また、次の大学評価に向けての活動として、新評価システムの点検評価項目の内、「教育研究組織」「教員・教員組織」「学生の受け入れ」「学生生活」の4項目について点検・評価を行い、報告書としてまとめました。

#### <教育・研究>

4年次における卒業論文や卒業研究等の登録に際しては、人間学部のみ3年次終了段階で卒業に必要な単位を90単位以上修得していなければ卒業論文等の登録を認めていませんでしたが、平成25年度入学生からは全学部の履修規程に卒業論文登録制限を明文化し、最低限必要な修得単位の目標を学生に明示することにしました。

本年度の教員免許状更新講習は、従前と同様に奈良教育大学が開講申請者となり、本学は協力校として、8月24日に柚之内キャンパスで「学校の教育課題と教育相談」、8月27日に体育学部キャンパスで「保健体育科における教科指導」と、選択領域2講座を開講しました。

FD（Faculty Development）関係では、前年に引き続き、学生による授業評価アンケートを春秋2回実施しました。FD公開授業は、従来の秋学期3回の実施に加えて、春学期に総合教育科目「基礎ゼミナール」のFD公開授業を実施しました。また、人間学部の複数の教員によるパネルディスカッション的な人間学部コラボ授業が、FD委員会の共催するFD公開授業として教職員に公開されました。

語学教育の充実に向けて導入したCALL（Computer Assisted Language Learning）教室では、教員とCALLサポートスタッフの協力を得て、2言語のe-learning教材(コンテンツ)を開発しました。

#### <学生支援>

「信仰フォーラム講演会」は、6月20日に吉澤正人氏(岩手大学工学部・大学院工学研究科教授)に「物理学で味わう元の理の世界」、12月12日には横山一郎氏（天理よろづ相談所理事長）に「公益財団法人天理よろづ相談所が目指すもの」のテーマで講演いただき、多くの教職員や学生が聴講しました。

「ジョイアスセミナー」は、学生自治会、よふぼく会、成人会の共催により、12月19日に「やる気の出る話・楽しく生きるキーワード」のテーマで清水国朝氏（天理教学生担当委員会委員）が講演され、学生が聴講しました。

また、「薬物乱用防止及び交通マナー勉強会」は6月18日に実施し、薬物乱用防止のDVD上映のほか、交通マナーについて天理警察署生活安全課の指導により、全クラブの役員が受講しました。

#### <災害復興支援>

前年に引き続き、東日本大震災復興支援プロジェクトチームとして学生ボランティアを募集し、2回の復興支援ボランティア活動を被災地（宮城県宮城郡七ヶ浜町）で実施しました。1回目は8月1日～4日の日程で実施し、ニューヨーク分校からの30名、本学学生16名と教職員5名の計51名が参加しました。2回目は8月29日～9月1日の日程で実施し、本学学生26名と教職員12名の計38名が参加しました。

また、柚之内ふるさと寮北寮の創立50周年記念事業として、被災地ひのきしんを宮城県亘理郡山元町で、9月18日～20日の日程で実施し、北寮生12名、南寮生1名と職員2名の計15名が参加しました。

#### <エコキャンパス>

本学の創立記念日である4月23日に、奈良県内の大学として初の「エコキャンパス宣言」を発表しました。具体的な活動としては、「エコキャンパス宣言」の基本方針に基づき、省電力や省エネルギーを啓蒙するポスターやシールを作成し、学内の施設に掲示しました。

#### <国際交流>

本年度の学術交流は、12月14日に韓国・釜山大学校人文学部との協定を締結しました。これにより海外交流協定校は19カ国（地域）33大学となりました。

学生交流では、協定校から64名の短期（交換）留学生を受け入れ、本学からは交換留学生として50名、認定留学生として18名の計68名の学生を派遣しました。また、海外インターンシップ制度によりフランス・パリへ3名、アメリカ・ロサンゼルスへ2名、ニューヨークへ2名、タイ・バンコクへ2名の計9名を派遣しました。

学術・文化交流面では、恒例となっている夏期日本語講座（8月8日～20日）に3大学（台湾・中国文化大学、台湾・台湾首府大学、ウクライナ・キエフ大学）から43名の受講生を受け入れて開催しました。

#### <入試>

オープンキャンパスを全学部で3回（7月、8月、9月）実施しました。また、大学祭期間中には入試部による入試相談会を開催しました。さらに、学外においては、入試説明会・相談会、高校訪問等の入試広報活動を積極的に展開しました。

#### <広報>

パブリシティーに関しては、プレスリリースを約13件発信したほか、ロンドン五輪出場の本学関係者の壮行式と記者会見を実施し、応援メッセージの寄せ書きも柚之内、体育学部の両キャンパスで行いました。また、ロンドン五輪応援を主とした「写真展夏季展」を天理本通りの「てんだり-colors」で開催しました。

大学広報誌「はばたき」は例年通り年4回発行しましたが、10月19日発行の第21号か

らは創刊以来のデザインを一新しました。

ホームページに関しては、前年度リニューアルした英語版に引き続き、中国語（簡体字）版、ハングル版の Web サイトを新たに公開し、さらなる多言語化を図りました。日本語版の Web サイトについては、新たに情報ライブラリーに関する Web サイトを公開し、学生が各種データベースにアクセスできる仕組みを構築しました。また、「教育情報の公表」に関しては、前年度公表した内容をさらに充実させました。

広告については、天理駅電照広告、阪神甲子園球場看板広告を継続して掲出し、県内テレビでのCM放映も行いました。

要覧関係では、受験生向け大学案内と日本語専攻案内をリニューアルしたほか、受験生向け大学案内DVD、英語版DVDも一部改訂しました。

### ＜就職支援＞

本年度文部科学省から採択された「産業界のニーズに対応した教育改善充実体制整備事業」（平成 24 年度～平成 26 年度）に関しては、プロジェクトチームを発足し、全学を挙げ取り組み、学生のキャリア教育に貢献することができました。

また、本年度より新たに「進路・キャリア教育支援委員会」を設置し、進路支援諸施策およびキャリア教育の充実発展を推進するため審議を重ねました。

求人情報システムに関しては、従来「CANET」を利用していましたが、本年度からは、「求人NAVI」に変更し、より効率良く情報を得ることができるようになりました。

「天理大学サテライトオフィス」（大阪・梅田）では韓国語・中国語・英会話の語学講座を開講し、多くの受講生を集めました。

また、就職活動を行う 3、4 年次生のみならず、低年次の段階から進路に対する意識を高め、人生観・職業観を育成するため、実業界で活躍する卒業生を講師に迎え、「キャリアデザイン—人生と職業—」の科目を開講しました。

2 月には企業の人事・採用担当者を大学に招き、学内企業説明会を開催し、2 日間で参加企業は 110 社、参加学生は 480 名と前年を上回り、盛会裏に終えることができました。

さらに、多様化した学生に対して、体系的な支援とともに個別に支援する取り組みも行いました。その一環として「キャリア支援ルーム」を開設し、キャリアアドバイザーを学外から迎えて個別相談に応じました。

### ＜施設・設備＞

平成 25 年度の国際学部完成年度に向けて、地域文化学科の共同研究室を研究コースごとに配置換えを行いました。

学修環境改善の上から、4 号棟では 44A 教室の机・椅子を入れ替えるとともに、教壇・教卓・黒板を改修しました。3 号棟では、プロジェクターでの授業に対応できるように教室の照明スイッチの切り替え工事を行うとともに、大教室（32C・32I・33C）の教壇横にスロープを設置、また 1 階事務室入口には自動扉を設置しました。8 号棟では、照明をエコライトに変更しました。

本年度より図書室がこれまでの天理図書館分館の位置づけから、「天理大学情報ライブラリー」として独立しました。本年度は、委託業者と連携して基盤作りを行うとともに、電子ジャーナルやデータベースも積極的に導入しました。なお、平成21年度より実施してきた共同研究室図書の蔵書点検(バーコード貼付、蔵書確認)作業は、本年度ですべて終了しました。

学生の要望を踏まえて弓道場から第二心光館までの通路を改修し、あわせて第二心光館に冷水器を設置しました。また、南棟駐輪場の出入り口に歩行者が確認できるカーブミラーを設置しました。

学寮関係では、旧第二さおとめ寮(指柳町)を改修し、「天理大学ラグビー寮」として使用することにしました。

#### <地域貢献>

天理市教育委員会、奈良新聞社、奈良県大学連合などとの共催で、6シリーズ計24回の公開講座を開催し、のべ1,110人の受講がありました。また、近畿圏内の高校(一部中学校も)での出張講義や高校生の大学来訪時の模擬授業など計19件を実施しました。

天理本通りに設けた「てんだりーcolors」では、学科専攻やクラブがイベントや活動を積極的に展開しました。

11月3日には天理市主催の「天理な祭り」にチアリーダー部や雅楽部が出演協力をしました。また、東北地方太平洋沖地震展示の大学ブースでは、学生自治会や本学防犯パトローズ隊(天理警察署と連携して地域の防犯に努める天理大学の学生チーム)が自転車施錠用ワイヤーロックの無料配布に協力しました。

3月10日には、復興支援団体天理絆クラブ主催の「東日本大震災復興イベントがんばっぺ」が天理駅前で開催され、本学防犯パトローズ隊が募金活動に協力しました。

#### <その他>

天理大学ふるさと会(本学同窓会)との連携により、「第3回天理大学ホームカミングデー」を大学祭期間中の11月3日に開催し、310名の卒業生、教職員が集い、盛会裏に終えることができました。

3月14日に元行政管理学会会長で現在学校法人実践女子学園理事長の井原徹氏を講師に迎え、「天理大学SD研修公開講演会」を開催し、51名の教職員が聴講しました。

人権教育関係では、ヒューマンライツ助成制度による各学部・学科、各部局、学生の自発的な人権啓発活動を継続して行いました。

#### 【天理図書館】

貴重資料・学術資料の収集・整理・保存に努め、善用に心がけました。

整理では、インターネット上での天理図書館所蔵資料の検索が可能となるように新収資料を随時公開しました。

また、本年度は、昭和5年に開館して以来、同57年までに整理・収蔵された一般図書の

カード目録遡及に本格的に取り組む第一年目となりました。庶務部と奉仕部を統合し業務の効率化を図り、プロジェクト担当部を新たに設けて遡及作業に取り組みました。和漢古書約 25,000 点 112,500 冊のうち 3,900 点 8,700 冊を含む 113,400 冊の入力が完了して利用者サービスの向上に繋がりました。特に和漢古書の遡及は、古典籍資料を多く所蔵する天理図書館の使命とも言え、学界各方面の利用に供することができました。

閲覧では、開架書架の図書を絶えず新整理図書と入れ替えるなど、見直し作業を行いました。また、正面ホールの空間を仕切って設置していたカード目録ボックスを旧雑誌室にまとめて目録検索の利便性を図ったほか、ホールを開館当初の広い空間に戻して館内配置図や各種サイン類を新たに表示することにより利用者環境を改善し、床マットのクリーニングを行うなど美化に取り組みました。

資料保存では、国宝『類聚名義抄』をはじめ、貴重資料を修復し、閲覧・複製等の利用に供せられるようになりました。

天理図書館所蔵資料を広く一般に公開する上から、教祖御誕生祭記念展(4 月 17 日～同 19 日)、開館 82 周年記念「ベストセラー作家誕生—ディケンズ初版本の世界—」展(10 月 19 日～11 月 4 日)を開催しました。また、東京天理教館において天理ギャラリー第 146 回展「近世の文人たち—自筆資料にみる人となり—」(5 月 13 日～6 月 10 日)を開催しました。天理ギャラリー展では、会期中の 5 月 26 日に早稲田大学大学院教授、中嶋隆氏による「西鶴の「文人」意識—言葉の錬金術—」と題する記念講演会を行いました。

出版活動では、天理図書館報『ビブリア』第 137 号(5 月刊)、同第 138 号(10 月刊)のほか、開館 82 周年記念展、天理ギャラリー第 146 回展それぞれの展覧会図録を出版しました。

対外的な活動では、平成 24(2012)年は、奈良時代後期の公卿で文人であった石上朝臣宅嗣が日本最初の公開図書館を開いて 1250 年目の年にあたり、(社)日本図書館協会等の主催で天理図書館が協力館となって『「芸亭院」開創 1250 年顕彰・図書館振興研究集会』が奈良市に於いて 5 月 10 日に開催されました。翌 11 日には、天理図書館前の「石上宅嗣卿顕彰之碑」において本館 OB、平井良朋氏による顕彰碑の解説と天理図書館視察見学が行われ、本館展示室において特別展示「記紀・万葉の世界と大和めぐり」展を開催し 40 名の参加者がありました。

10 月 19 日には、「平成 24 年度私立大学図書館協会京都地区協議会第 2 回研究(修)会」を天理図書館において開催し、天理大学、山中秀夫教授の「情報共有のための和古書目録(1)—総合目録作成の意味—」、本館、岡嶋偉久子「情報共有のための和古書目録(2)—目録作成にあたっての基本的態度—」、同、瀬川清人「ベストセラー作家ディケンズを生んだ出版形式(形態)」の講演と一般書庫および展示室の見学が行われました。近畿地区の国立・私立大学、研究機関の 30 図書館から 49 名の参加者がありました。

## 【おやさと研究所】

本年度も、本研究所の活動の趣旨をご理解頂いた関係各位のご協力のおかげにより、当



初立てた計画をスムーズに遂行することができました。

創立 50 周年の記念として始めた公開教学講座は、「信仰に生きる－『逸話篇』に学ぶ(1)」として、7 月と 12 月を除く 7 ヶ月全 7 回、毎月 26 日に道友社ホールにて開催しました。毎回百名を超える受講者があり、その要旨は「グローバル天理」「天理時報」「みちのとも」に掲載され、多くの関心を集めました。

国々所々において現代の諸問題に対応できる人材養成を目的とした「教学と現代」は、毎回意義ある催しであるとの大方の賛同を得ており、継続的な開催の要請があります。本年度は、教祖 130 年祭（2016 年）までの 3 年間の企画として、「海外伝道の現状と課題シリーズ」と銘打ち、本教の海外布教拠点の長に現地リアルタイムに起こっている社会状況や布教伝道の姿を語ってもらい、あわせて本研究所にどのような後方支援を期待しているか、その要望を聴くという主旨で開催することになりました。その第 1 回目を、アメリカ、ブラジル、ハワイの各伝道庁長にご発題頂き、1 月 29 日に開催しました。

定例の研究報告会は、247 回～258 回の 11 回開催、伝道研究会は、前年度より始めた「天理教の海外布教における文化活動」の第 2 回目を 7 月 28 日に、3 回目を 12 月 4 日に開催しました。

第 21 回宗教研究会は、前年度に引き続き「現代世界の“死”に見るいのちの危機と宗教の課題」をテーマとした研究会を開催しました。

出版物としては、定期の月刊誌「グローバル天理」をはじめ、年刊の「Tenri Journal of Religion」「おやさと研究所年報」を出版しました。「伝道参考シリーズ」24 巻目は、平成 22 年・23 年度公開教学講座「現代社会と天理教」のまとめとして、同名のタイトルで出版しました。14 冊目となる「グローバル新書」は、森洋明『伝道宗教による異文化接触－天理教コンゴ伝道を通じて－』を出版しました。また、平成 23 年 3 月 25 日に開催した第 7 回伝道フォーラム「ネパールの天理教」の報告書を、同名のタイトルで出版しました。

### 【天理参考館】

博学連携の充実を図るため、主に管内各学校や天理市内の小・中学校への当施設利用促進の働きかけを行いました。単に展示資料の見学案内だけでなく、事前に各学校の先生と相談を重ねて収蔵資料の中に授業で活用できるものがあれば貸し出しを行うなど、学校教育充実の一助となるような取り組みをこれまで以上に行いました。

企画展は、『大布留遺跡展－物部氏の拠点集落を掘る－』（4 月～6 月）、『鉄道絵葉書の世界』（7 月～8 月）、『蹴鞠 Kemari』（10 月～12 月）、新春展『古代日本の鏡』（1 月～3 月）、および『みちのくの郷土玩具と出土品－東日本大震災復興支援展示－』（平成 23 年 7 月～）、スポット展『五月人形』（4 月～5 月）、『雛人形』（2 月～4 月）などを開催しました。天理ギャラリー展では、『東アジアの古代瓦』、『精霊との出会い－西部ニューギニア先住民 神がみのかたち－』を開催しました。『蹴鞠 Kemari』展では、旧蔵者から寄贈を受けた関連資料が天理図書館と分けて収蔵している状況にあります。この企画によって、それらの

資料を一堂に紹介することが出来たことは学内連携の上で大きな前進となりました。

企画展関連イベントとして開催した記念講演会（2回）、鉄道模型走行実演、蹴鞠実演、蹴鞠装束着付実演は好評でした。蹴鞠実演では天理大学サッカー部の協力を頂くなど、大学との連携も図りました。このほかトーク・サンコーカン(公開講演会/7回)、ワークショップ『バリガムラン体験講座』、『古代豪族、物部氏の里に行く一布留遺跡と柚之内古墳群めぐり』を開催しました。また、ミュージアムコンサート『参考館メロディユー』(天理教音楽研究会共催/12回)を継続して開催しました。

本年度は海外への資料の貸し出しを行いました。台湾国立台湾歴史博物館における特別展「看見平埔(平埔を見つめる)ー台湾平埔族の歴史と文化」(3月22日～8月4日)の開催に際して、関連資料33点を貸し出し、初めて共催館として参画しました。

平成21年度から始めた寄贈資料の整理、登録業務を進めました。通常業務としては考古美術・生活文化資料の収蔵品および研究用図書の実を充実を図り、資料の調査研究、整理、修復・保存処理を行いました。出版物として天理参考館報、企画展図録を刊行しました。

広報としてはホームページの内容充実、情報誌、マスコミへの情報提供、ポスター、ちらし等のほか、『天理参考館ニュースター』を発行するなど、館活動の情報発信を継続して行い、広報活動の充実を図りました。

そのほか資料熟覧、資料写真掲載・映像取材などの協力を行い、また、来館者に喜んで頂けるような親切な接客、博物館情報の提供、館内の美化等に取り組みました。

### 【天理高等学校第一部（全日制）】

本年度も、こどもおぢばがえりひのきしんには、全校生の半数以上にあたる664名(前年663名)の生徒が、夏の学生生徒修養会には前年を大きく上回る自宅生36名(前年16名)が参加しました。また、11月に天理教少年会本部主催「天理教少年会育成講習会・天理高校生の部」が十数年ぶりに開催され、49名の生徒が参加し、幼い子どもへ信仰の喜びを伝える大切さを学びました。1月には3年生408名全員がおさづけの理を拝戴しました。

教職員研修では、教えに則した信仰実践を目指す中で、前年度に引き続きおつとめについての研修を行い、実際に男鳴物・女鳴物の練習を行いました。

進学・学習指導では、本年度も通常の課外講習に加え、夏季・冬季講習、合宿勉強会、特設課外講習、土日を利用しての補習やセンター試験対策を行いました。2類では前年に引き続き京都大学(法)への合格をはじめ、九州大学・神戸大学・大阪市立大学・大阪府立大学などへ、1類からは奈良教育大学、高知工科大学へ、さらに、3類からも大阪教育大学へと、計24名が国公立大学に合格しました。また、天理大学(113名)・天理医療大学(25名)やその他の私立大学(226名)・短期大学・専門学校を加えると、のべ485名が合格しました。教員個々が共通の認識をもって、質の高い進路指導や一貫した生徒指導に取り組めるよう、また、近年増加傾向にある発達障害や不登校気味の生徒の把握や対応についての研修など、学校の現状に応じた研修を各部会が企画し、外部講師を招くなどして11回にわたり行いま

した。また、教科指導の点検や指導表現を高めるため、16回の授業研究会を実施するとともに、奈良県立教育研究所の「研修講座」への参加など、管外の研修へも多くの教職員が参加しました。

クラブ活動では、インターハイ（北信越かがき総体）へ、柔道部（男女）・水泳部・ホッケー部（男女）・卓球部(個人)が出場し、柔道部男子が久しぶりに団体で第3位に、個人戦でも2階級で準優勝しました。水泳部も男子400mリレーで43年ぶりに決勝へ駒を進めるなどの活躍をみせました。

第94回全国高等学校野球選手権大会に26回目の出場を果たした野球部は、8年ぶりにベスト8に進出しました。また、「春高バレー」で親しまれている第65回全日本バレーボール高等学校選手権大会にバレーボール部女子が初出場しました。同部の全国大会出場は、昭和23年の創部以来、64年目にして初の快挙でもありました。

春の選抜大会へは、柔道部の男子団体(35年連続)・個人、女子団体・個人、ホッケー部男子・女子が出場し、ホッケー部男子が、第44回全国高等学校選抜ホッケー大会で4年ぶり8回目の優勝を遂げ全国の頂点に立ちました。また、新潟で開催された全国JOCジュニアオリンピック春季水泳競技大会へも水泳部6名が出場しました。特に、水泳部・2年生の砂間敬太は、インターハイ200m背泳ぎで準優勝し、その後アメリカ・ハワイ州ホノルルで行われた第5回ジュニア・パンパシフィック選手権では200m背泳ぎ、400m個人メドレーで2位に入賞し、日本代表選手としてアジア選手権出場を決めました。そのアジア選手権でも、400m個人メドレーで2位、200m背泳ぎ・200m個人メドレーでも3位に入り、これから開催される日本選手権、全豪チャンピオンシップへの出場も決っており、世界を舞台に着実に成長を続けている姿に多くの注目を集めています。

文化系クラブでは、吹奏楽部が11月、第14回全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜に出場し、8年連続のグランプリを受賞。さらに2日間の大会期間を通しての総合準優勝に輝きました。また、3月に行われた第25回全日本高等学校選抜吹奏楽大会でもゴールデン賞を受賞しました。第36回全国高等学校総合文化祭(とやま2012)には、求道部講演班、囲碁将棋部、バトントワリング部が出場し、バトントワリング部はグッドパレード賞を受賞しました。美術部は第62回学展にて千点を越える応募作品の中から、3名が第3次選考に残り、賞候補入選に選ばれました。また、ダンス部は第4回全国高等学校ダンスドリル冬季大会(HIP HOP男女混成部門スモール編成)で第1位になるなど、日頃の練習の成果を十分に発揮しました。

環境施設面においては、施設内の主要な箇所に防犯カメラが設置され、特に外来者の把握や防犯の上に大きな役割を果たしています。

学寮では、みのり寮・北寮ふしん寮の各生徒室に冷暖房が完備され、生徒の健康管理面、勉学への取り組みなど、その効果が期待されます。

また、第二部の介護福祉科の校舎として使用していた第4別館を、求道部雅楽班・箏曲班の活動教室として、また、用木コースの活動教室や夏のこどもおちばがえりの天高生係

室として活用できることになりました。

学校評価は、本年度より教職員は記名式で実施し、それぞれが責任をもって評価し、お互いの意見を確認し合いました。これに生徒による評価を重ね、これからの学校の在り方や生徒の思い・実態を分析し、学校評価の目的に相応しい取り組みが各分掌で検討され、今後の取り組みに生かすことができました。

### 【天理高等学校第二部（定時制）】

本年度から全学年普通科3クラスの計12クラスでのスタートとなりました。6月には天理教「集会」に招かれ、これまでの第二部の歩みと現況を説明しました。「集会」では今後とも第二部を盛りたてていく旨の決議をいただきました。

施設面では、前年度末に介護福祉科の廃課程にともなって、第4別館校舎を閉鎖しましたが、平成25年度から天理高校第一部・二部で共同使用することとなり、再使用に向けて校舎の整備に努めました。また、陽心寮においては、環境整備の上から引き続きトイレの便器等の改修を行いました。

信条教育については、「諭達第三号」の発布と教祖130年祭に向けての三年千日の打ち出しを承けて、職員月次祭まなび、各寮での朝礼やまなびの場で諭達の拝読を励行しました。また例年のことではありますが、「こどもおちばがえりひのきしん」「お節会ひのきしん」に多くの生徒・教職員が参加しました。3月10日には3年生110名が「おさづけの理」を拝戴し、よふぼくとなりました。対外的な面では、本年も「奈良県障害者スポーツ大会」に生徒207名、職員22名が大会補助員・競技補助員としてボランティア活動を行いました。

行事面では、5月の保護者懇談会を、これまでの1・4年生だけでなく全学年で実施し、10月と合わせて年2回の懇談の場を設けました。11月24日には第7回目となるオープンスクールを実施しました。今回は学校紹介のDVDを新しく製作し、来校された330名の方々からも第二部生活の1年がよくわかると好評でありました。なお、このDVDは各信者詰所にも配布しました。

教育課程については、平成25年度の新学習指導要領実施に向けて、各教科で最終的な指導内容の検討を行いました。また、学期毎の成績不振者に実施している基礎講習への受講を、従来の指名制から希望選択制に改め、生徒の学習への意識と意欲を高めるよう図りました。

クラブ活動については、全国大会に8クラブ・124名の選手が参加し、団体では6年連続9回目優勝の軟式野球部、5年連続13回目優勝のバスケットボール部女子、3年連続17回優勝のソフトテニス部女子、3年ぶり19回目優勝の卓球部女子、個人では陸上競技男子800m、ソフトテニス部女子、バドミントン部男子でそれぞれ優勝するなど、大いに活躍しました。

学校評価については、教員ひとり一人の課題に対する意識の高まりが見られ、成果と次年度に取り組むべき課題の検討を行いました。

## 【天理中学校】

本年度は、中学校で新学習指導要領が完全実施されました。

一昨年度から研修部を再度立上げ、教員の授業技術や資質の向上を目指して、研修を計画的に実施するなどの取り組みができました。1学期には「数学科」、2学期には「英語科」で外部講師を招いての公開授業と指導・助言をいただく研修を実施しました。また、若手教員育成のため、35歳以下の教員15名を対象に生徒指導研修を実施しました。その他、県や市の「研修講座」や「授業研修」にも教員が積極的に参加しました。

P.D.C.A. (Plan.Do.Check.Action) については、行事ごとにアンケートをとりながらより良い方向へ改善しながら進めることができました。

一昨年、昨年に続き実施した学校評価では、概ね良い結果でありましたが、信条教育の上で、毎日の学校参拝や学校行事としてのひのきしん活動等は意欲的にかつ勇んで取り組んでいるものの、日常生活の中にそうした姿勢や意識をいかに浸透させていくことができるかというところに課題を確認しました。「心の教育」に重点を置いて取り組みたいと考えています。

不登校傾向の生徒やオアシスルームに来る生徒、また心に問題を抱える生徒たちへのケアについては、教育相談委員会を中心に、各担任や学年、養護教諭やカウンセラー、天理大学院生であるオアシスフレンドとの連携を密にしながら状況把握に努め、カウンセリングにつなげるなどのサポートを行いました。また、担任や副担任の家庭訪問も必要に応じてくり返し実施しました。

部活動では、弦楽部が文部科学大臣奨励賞に輝き、天理中学校として初めて合奏の記念演奏をすることができました。吹奏楽部は3年連続奈良県代表として関西コンクールへ出場し、16年ぶりの金賞を受賞し、箏曲部は全国小・中学校コンクールで銀賞(2位)を受賞しました。

また、ラグビー部が第3回全国大会に初出場で初優勝し、野球部は県選抜大会で50年ぶりに優勝するとともに県総体では準優勝に輝きました。飛込部、柔道部、水泳部は全国大会への出場を果たしました。その他、バレーボール部が第16回日韓青少年スポーツ交流事業で、選手5名と監督1名が県代表として韓国に派遣されるなど、文化系体育系ともに部活動は顕著な成績を残すことができました。

## 【天理小学校】

本年も4月、6月、1月の3回にわたり、月次祭講話を天理教少年会本部の方にしていただきました。同時に、6年生の児童代表が信仰体験を語ることで、より身近に道の教えにふれることができました。

教職員の学校評価・自己点検につきましては、本年度より「重点目標」と「目標達成の方策」をあらかじめ「学校運営計画」に記載し、年度当初の早い時点で意識できるようにし

ました。その結果、4段階評価で、「A：きちんとできている」「B：ほぼできている」の評価を合わせて96%以上が7項目ありました。年度の重点目標となる評価項目を早く設定したことがよい成果につながりました。一方、以前課題になって少し対策を立てたもののあまり実践していなかった、「外部での個人研修の伝達」の項目は53%と、最下位の評価でした。また、「危機管理マニュアルの熟知」の項目は59%で、いずれも次年度に向けての大きな課題となりました。

「天小タイム」については、①夏校時は15分間、冬校時は可能な範囲で実施する、②委員会の仕事はできる限り昼休みに回す、③教材は各学年毎で検討して決める、の3点の申し合わせ事項を設け、各学年の実情に合わせて実施しました。暗唱指導では、「お道の言葉と詩文集」を活用しました。また、「計算チャレンジ会」を行い、「天小タイム」で身につけた計算力を試す機会を作りました。

本校の生命線ともいえる「研修」への取り組みは、「学校運営計画」に綿密な研修計画を立てて実践しました。「信条教育の実践」という大テーマのもとに、中テーマとして、①お道の教えを通して、児童の心を育てる、②児童の学力を育てる、③児童に生きる力を身につけさせる、の3点を掲げ、さらに11項目の小テーマを設定しました。その中の「一人ひとりを大切に特別支援教育の取り組み」「不登校について学習会を進める」の2項目については、外部から講師を招いて研修を重ねました。中テーマの②「児童の学力を育てる」ためには、教師の授業力向上が不可欠であり、本年は全員が教科での研究授業を行いました。また、全員が参加する形態の授業研究は、1学期に「信条」、2学期に「国語」、3学期に「社会」の授業を、それぞれの教科部会の代表が周到な用意のもと行い、互いの研鑽のために活発な意見交換がなされました。これらの取り組みをまとめたものとして、『教育実践記録』を刊行します。

月に1度の割合で「教育相談委員会」「いじめ不登校対策相談委員会」を開催し、児童の情報を共有しながら改善の方策を探るとともに、早急な対応が必要な場合は、緊急に話し合いの場を持ったり、臨時の会議を開きました。

### 【天理幼稚園】

全教職員が子ども達にとって良きモデルとなるよう、一手一つに勇んで務めました。子ども一人ひとりの実態やクラスでの実態を常に教師間で報告し合い、全教師が共通理解のもと、その子に応じた援助ができるようにしました。

園児が自身の持ち味を発揮するとともに可能性を見出していけるよう、外部講師や保護者の協力のもと、リトミック、英語、レスリングなど様々な文化やスポーツに触れる機会をつくり、指導者との交流を楽しみながら経験の幅を広げることができました。

特別な支援を要する幼児に対しては、個別の指導計画を作成し、課題点や配慮すべき点を教師間で共有し、援助にあたることができました。また、健康管理室や天理市保健センター等の臨床心理士と情報を交換して連携を深め、適切な援助ができるよう努めました。

教員研修では、文部科学省の研究課題「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」に基づいた実践と公開保育による研修を行いました。その他、講師を招いて「発達障害について」の研修を行いました。また、様々な研修会に代わり合って参加し、教員一人ひとりが研鑽に努めました。

保護者との連携においては、年度始めに園のきまりを冊子にして保護者に配布し、望ましい園生活を送る上でのきまりへの了解と協力を要請しました。また、保護者に教育方針や内容をよりよく理解して頂けるよう、プリント配布やスナップ写真展示などで様々な情報や活動、行事を伝えるとともに、ホームページを通して園の活動や行事をタイムリーに提供してきました。加えて、緊急時の一斉メール送信を導入することで、保護者にいち早く必要な情報を提供することができるようになりました。

保護者アンケートを含んだ学校評価を実施しました。教員による学校評価の結果は、全30項目の内、4段階評価で、28項目がA(とても思う)、2項目がB(思う)という肯定的評価となり、保護者アンケートについても、全10項目の内、9項目がA、B合わせて90%以上という高い評価を頂きました。この結果については、3月の育友会総会で保護者に報告し、今後の協力についてもお願いをしました。

環境面については、専門業者による遊具の安全点検の結果、チェーンネット遊具が劣化していたので取り外しました。また、園庭の藤棚も老朽化し危険なため新しい木製棚に取り換えました。園児用通路の段差の側面に黄色のペンキを塗り、躓かないように安全に配慮しました。

### 3. 財務の概要

#### (1) 平成 24 年度決算の概要

平成 24 年度決算について、予算と対比してその概要を報告します。

#### ○ 資金収支計算

資金収支計算書は、当該年度における教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容、並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。すべての収支内容を明らかにするとは、実際の収入・支出に限らずその会計期間に入金又は出金すべき額、すなわち未収入金や未払金も収入・支出に含め、授業料免除等のお金の動きが実際でない活動も含めることとなります。また、支払資金のてん末とは、支払資金の前年度末残高、入金、出金及び年度末残高を明らかにすることです。従って収入には前年度繰越支払資金を含めて計算し、支出には次年度繰越支払資金を含めて計算することになり、収入の部合計と支出の部合計は一致します。

資金収支計算書は企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いものですが、個々の収入金額、支出金額は前受金、未収入金、未払金、前払金等で処理した費用も含まれていますので、必ずしもキャッシュ・フローとはなっていません。しかし、それら前受金等を調整する「調整勘定」を設けることにより、総額としてはキャッシュ・フローを示しています。

(単位：千円)

●収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,581,370	3,591,305	△ 9,935
手数料収入	72,865	76,454	△ 3,589
寄付金収入	2,910,200	2,909,550	650
補助金収入	1,179,971	1,210,555	△ 30,584
資産運用収入	52,823	56,411	△ 3,588
資産売却収入	140,000	140,000	0
雑収入	299,471	301,932	△ 2,461
前受金収入	472,250	498,605	△ 26,355
その他の収入	375,731	374,870	861
資金収入調整勘定	△ 752,988	△ 780,319	27,331
前年度繰越支払資金	4,698,349	4,698,349	
<b>収入の部合計</b>	<b>13,030,042</b>	<b>13,077,712</b>	<b>△ 47,670</b>



●支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費支出	5,793,928	5,813,866	△ 19,938
教育研究経費支出	1,269,398	1,189,445	79,953
管理経費支出	358,501	325,683	32,818
借入金等利息支出	2,706	2,705	1
借入金等返済支出	100,000	100,000	0
施設関係支出	323,600	320,736	2,864
設備関係支出	198,567	194,447	4,120
資産運用支出	101,310	100,467	843
その他の支出	1,302,491	1,316,192	△ 13,701
資金支出調整勘定	△ 926,877	△ 844,814	△ 82,063
次年度繰越支払資金	4,506,418	4,558,985	△ 52,567
支出の部合計	13,030,042	13,077,712	△ 47,670

収入の部では、学生生徒等納付金収入の決算額はほぼ予算どおりとなりました。手数料収入は入学検定料収入の増額により 359 万円の収入超過となっています。寄付金収入は宗教学法人天理教より 29 億円、100%出資の事業会社「キャンパスサポート天理」より受配者指定寄付金が 500 万円ありました。24 年度より寄付をホームページ上で募集し、クレジットカード等を利用することによりホームページで受付するシステムを構築しました。それにより使途指定寄付金 297 万円、その他の寄付金 158 万円を受け入れました。補助金収入は国庫補助金収入が追加の補助申請をしたことから 1411 万円の予算超過となりました。地方公共団体補助金収入は見込みを上まわり、1647 万円が予算額より増額となりました。資産運用収入は債券等の購入により予算額より増額となっています。雑収入は私立大学退職金財団等交付金収入が予算どおり、また、その他の雑収入では文部科学省科学研究費補助金間接経費等が増えたため収入超過となりました。当年度収入合計は前年度の 84 億 5690 万円より 1 億 7069 万円減少して 82 億 8621 万円となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では 130 億 7771 万円となりました。

支出の部では、人件費支出は見積りより増額となり、1994 万円の予算超過となりました。教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出、設備関係支出に計上された主な工事、備品等の整備は以下のとおりです。

施 設	内 容
大 学	◇研究棟自動火災報知器更新工事 ◇柚之内第一体育館自動火災報知器更新工事 ◇体育学部架空高圧配線路設備更新工事 ◇CALLシステムユーザーサポート作業

	委託料 ◇情報ライブラリー業務委託料 ◇図書資料廻及データ登録作業費
施設	内 容
大 学	◇ラグビー寮改修工事 ◇売店新店舗入居用電源供給工事 ◇4号棟教室机・椅子入替 ◇体育学部ポール式屋外時計構築 ◇運動動作解析システム ◇野球寮公共下水工事 ◇仮想化サーバーリプレイス
図 書 館	◇自動火災報知器更新工事 ◇重要文化財保存修理 ◇特別本「高德院発句会」 「月並発句帖」「夏より」他購入
参 考 館	◇自動券売機入替
高等学校	◇北寮エアコン設備・給湯設備工事 ◇みのり寮エアコン設備・給湯設備工事 ◇第2PC教室設備更新 ◇第3別館ベランダ通路フェンス修繕塗装工事 ◇一部硬 式野球部選抜野球大会出場補助 ◇北寮スチール窓改修工事 ◇火水風寮外壁雨漏り 修繕工事 ◇陽心寮便所小便器取替工事 ◇農事部トラクター購入
中学校	◇エレベータ設置工事 ◇保健室改修工事
小学校	◇給食用消毒保管庫購入

日本私立学校振興・共済事業団からの借入金にかかる返済支出は予算どおり1億円、同利息分が271万円です。資金支出は合計で130億7771万円となり、そのうち次年度繰越支払資金は45億5898万円となりました。

## ○ 消費収支計算

消費収支計算は企業会計における損益計算の仕組みに類似しています。すなわち帰属収入（学校法人の負債とならない収入＝収益）から基本金組入額（教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な土地、建物、機器備品、図書等を取得した金額＝資産）を差し引いた消費収入と消費支出（消費した資産の価額及び用役の対価＝費用）を比較して、その均衡の状態、収入が超過しているか、あるいは支出が超過しているかを判定するものです。（損益計算書では計上されない資本的支出が、消費収支計算書では基本金組入額として計上されている点が主な相違点です。）

学校法人は企業と異なり収益の獲得を目的とするものではありませんので、学校法人会計には損益の計算という概念はありません。教育研究内容に見合った適正な収入を得て、教育研究活動の機会と場を継続的に提供することを目的としています。消費収支計算書の消費収入と消費支出が長期的にはつり合い、必要な資産が維持されることが健全な学校経営として望まれるところです。

（単位：千円）

●消費収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,581,370	3,591,305	△ 9,935
手数料	72,865	76,454	△ 3,589
寄付金	2,921,530	2,919,595	1,935
補助金	1,179,971	1,210,555	△ 30,584
資産運用収入	52,823	56,411	△ 3,588
資産売却差額	0	5,000	△ 5,000
雑収入	299,471	301,932	△ 2,461
帰属収入合計	8,108,030	8,161,252	△ 53,222
基本金組入額合計	△ 570,167	△ 451,833	△ 118,334
<b>消費収入の部合計</b>	<b>7,537,863</b>	<b>7,709,419</b>	<b>△ 171,556</b>

●消費支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費	5,888,128	5,913,750	△ 25,622
教育研究経費	1,966,109	1,885,261	80,848
管理経費	394,368	361,218	33,150
借入金等利息	2,706	2,705	1
資産処分差額	16,200	45,855	△ 29,655
<b>消費支出の部合計</b>	<b>8,267,511</b>	<b>8,208,789</b>	<b>58,722</b>

当年度消費支出超過額	729,648	499,370	
前年度繰越消費支出超過額	10,010,909	10,010,909	
翌年度繰越消費支出超過額	10,740,557	10,510,279	

【用語（科目）の説明】

- ① 学生生徒等納付金……授業料、入学金、実験実習料、維持費、教育設備充実費等
- ② 手数料……入学検定料、試験料、証明手数料等
- ③ 寄付金……宗教法人天理教よりの回付金、一般寄付金等
- ④ 補助金……私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等
- ⑤ 資産運用収入……預金、有価証券等の利息、配当金等  
施設設備の賃貸料収入
- ⑥ 資産売却差額……資産売却収入がその帳簿残高を超えた場合の超過額
- ⑦ 雑収入……私立大学退職金財団等交付金収入、その他の雑収入

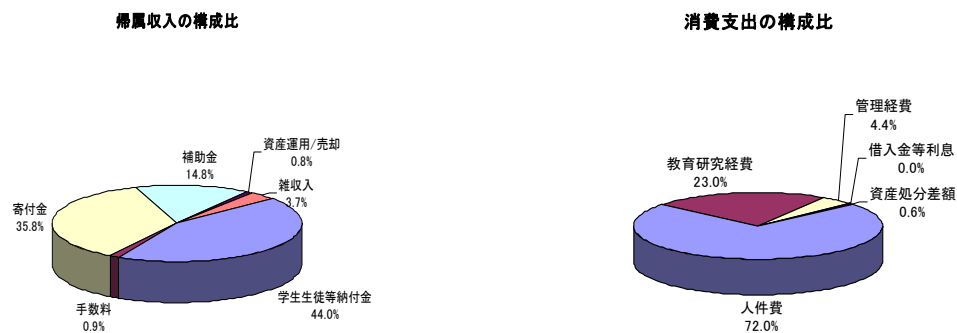
- ⑧ 帰属収入……………すべての収入のうち、借入金等の負債の増加とならない、本来的に学校法人に帰属する収入  
(資金の収入を伴わない現物寄付を含む)
- ⑨ 基本金組入額……………取得した建物、機器備品等の固定資産のうち、帰属収入をもって充当した額
- ⑩ 人件費……………教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費  
役員報酬、退職給与引当金組入額
- ⑪ 教育研究経費……………教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額
- ⑫ 管理経費……………教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額
- ⑬ 借入金等利息……………借入金に係る利息
- ⑭ 資産処分差額……………固定資産を廃棄した場合の除去損

《前述の資金収支と共通の科目があるので、消費収支特有のものについて説明します。》

消費収入の部では、帰属収入合計が予算比 0.7%増の 81 億 6125 万円（前年度 6.4%〈5 億 5485 万円〉の減）となりました。基本金組入額合計が、予算比 20.8%減の 4 億 5183 万円となり、消費収入合計は予算比 2.3%増の 77 億 942 万円（前年度比では 9.4%〈8 億 183 万円〉の減）となりました。消費収入特有の現物寄付としては大学後援会等より図書を受贈、文部科学省科学研究費補助金による備品購入があり、寄付金は 29 億 1960 万円（前年度比では 10.2%〈3 億 3085 万円〉の減）となりました。消費支出の部では、人件費に退職給与引当金繰入額 6 億 9217 万円を含み、資金収支計算での人件費支出との差額は 9988 万円となっています。教育研究経費に 6 億 1444 万円、管理経費に 2668 万円の減価償却費を含んでいます。消費支出の部合計は 82 億 879 万円（前年度比では 5.8%〈5 億 731 万円〉の減）となりました。

当年度消費収支差額は 4 億 9937 万円の消費支出超過額（前年度は 2 億 485 万円の消費支出超過額）となり、前年度繰越消費支出超過額を加えた翌年度繰越消費支出超過額は 105 億 1028 万円となりました。

《消費収支計算のグラフ》



## ○ 貸借対照表

貸借対照表は、当法人の財政状態を明示するために、年度末に保有するすべての、資産、負債、基本金および消費収支差額を前会計年度末の額と比較して一覧表示したものです。資産の部は、貸借対照表の借方に表示され、学校法人天理大学に投入された資金がどのように使われているかを表示します。貸方に表示される負債、基本金、消費収支差額はその資産が他人の資金（負債）によって賄われているか、自己資金（基本金、消費収支差額）で賄われているか、すなわち資金の源泉を表示しています。

企業会計という資本という概念がないので、基本金の部（基本金として組み入れている金額）と消費収支差額の部（消費収支計算で消費収入から消費支出を差し引いたものの会計年度末までの累計額）が貸方に計上されることが企業会計のものとは異なる点です。

また、記載金額は期末時点の財産価値ではなく取得した当初の価額を基準とし（取得原価基準）、建物、機器備品等の時の経過によりその価値を減少させる固定資産の貸借対照表計上額は、減価償却をおこなった後の金額となります。

（単位：千円）

●資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	27,088,166	27,373,143	△ 284,977
有形固定資産	25,309,958	25,560,401	△ 250,443
その他の固定資産	1,778,208	1,812,742	△ 34,534
流動資産	4,820,726	5,078,625	△ 257,899
資産の部合計	31,908,892	32,451,768	△ 542,876

●負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	1,090,408	1,090,525	△ 117
流動負債	1,566,322	2,061,544	△ 495,222
負債の部合計	2,656,730	3,152,069	△ 495,339

●基本金の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	38,973,223	38,521,855	451,368
第3号基本金	139,218	138,753	465
第4号基本金	650,000	650,000	0
基本金の部合計	39,762,441	39,310,608	451,833

●消費収支差額の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	10,510,279	10,010,909	499,370
消費収支差額の部合計	△ 10,510,279	△ 10,010,909	△ 499,370
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	31,908,892	32,451,768	△ 542,876

【用語（科目）の説明】

- ⑮ 固定資産……………有形固定資産：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車輛  
その他の固定資産：有価証券、引当資産等
- ⑯ 流動資産……………現金預金、未収入金、仮払金、貯蔵品
- ⑰ 固定負債……………長期借入金、退職給与引当金
- ⑱ 流動負債……………短期借入金、未払金、前受金、預り金
- ⑲ 基本金……………第1号基本金：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車輛等の教育研究に必要な資産を  
自己資金で取得した総額  
第3号基本金：天理大学ふるさと会海外研修基金、果実を学生の海外研修費用の一部に充当  
第4号基本金：学校法人が円滑な運営を行うために必要な運転資金の額
- ⑳ 消費収支差額 ……………当年度以前の各年度の消費収入から消費支出を差し引いた差額の累計額

資産の部では、有形固定資産が施設設備の更新、受贈等による増加と資産の除却による減少及び減価償却額を差し引いて、前年度末から2億5044万円減額しています。その他の固定資産は有価証券の償還があり、3453万円減額しています。流動資産は現金預金、未収入金等の減少により2億5790万円の減となり、資産の部合計では差引5億4288万円減の319億889万円となりました。負債の部では借入金、未払金、前受金、預り金が減少し、退職給与引当金が増加したので差引4億9534万円減の26億5673万円となっています。基本金の部では4億5183万円の基本金組み入れを行いましたので総額397億6244万円となりました。

消費収支差額の部合計は、消費収支計算の翌年度消費支出超過額と同額の105億1028万円の消費支出超過となっています。資産の部合計から負債の部合計を差し引いた正味財産は292億5216万円となりました。

## (2) 経年比較

財務状況について、収支計算書及び貸借対照表の大科目又は主な科目の過去5年間の推移を記載します。

(単位：千円)

資金収支計算書					
●収入の部					
科 目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
学生生徒等納付金収入	3,450,498	3,388,355	3,289,724	3,394,678	3,591,305
手数料収入	75,177	75,701	78,616	77,457	76,454
寄付金収入	3,390,877	3,251,160	3,258,298	3,100,250	2,909,550
補助金収入	1,257,913	1,260,021	1,222,293	1,290,385	1,210,555
資産運用収入	60,029	59,984	55,280	53,203	56,411
資産売却収入	16,311	510	104,640	100,000	140,000
雑収入	412,667	308,612	248,903	440,927	301,932
前受金収入	638,723	548,415	505,340	526,665	498,605
その他の収入	389,120	338,524	299,592	492,630	374,870
資金収入調整勘定	△ 976,467	△ 928,536	△ 739,670	△ 880,210	△ 780,319
前年度繰越支払資金	5,056,219	4,378,655	3,937,418	4,169,107	4,698,349
<b>収入の部合計</b>	<b>13,771,067</b>	<b>12,681,401</b>	<b>12,260,434</b>	<b>12,765,092</b>	<b>13,077,712</b>

●支出の部					
科 目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
人件費支出	6,779,260	6,160,675	6,034,553	6,441,977	5,813,866
教育研究経費支出	1,206,959	1,161,355	1,171,301	1,167,167	1,189,445
管理経費支出	419,252	390,313	386,706	365,987	325,683
借入金等利息支出	9,035	7,453	5,870	4,288	2,705
借入金等返済支出	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
施設関係支出	984,777	76,743	65,030	87,233	320,736
設備関係支出	261,093	245,002	236,194	192,498	194,447
資産運用支出	142	234,728	96	109,078	100,467
その他の支出	987,508	1,360,152	922,438	900,861	1,316,192
資金支出調整勘定	△ 1,355,614	△ 992,438	△ 900,861	△ 1,302,346	△ 844,814
次年度繰越支払資金	4,378,655	3,937,418	4,169,107	4,698,349	4,558,985
<b>支出の部合計</b>	<b>13,771,067</b>	<b>12,681,401</b>	<b>12,260,434</b>	<b>12,765,092</b>	<b>13,077,712</b>

(単位：千円)

消費収支計算書					
●消費収入の部					
科 目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
学生生徒等納付金	3,450,498	3,388,355	3,289,724	3,394,678	3,591,305
手数料	75,177	75,701	78,616	77,457	76,454
寄付金	3,415,086	3,466,252	3,271,458	3,250,441	2,919,595
補助金	1,257,913	1,260,021	1,222,293	1,290,385	1,210,555
資産運用収入	60,029	59,984	55,280	53,203	56,411
資産売却差額	7,807	0	393	0	5,000
雑収入	412,668	552,692	248,903	649,935	301,932
帰属収入合計	8,679,178	8,803,005	8,166,667	8,716,099	8,161,252
基本金組入額合計	△ 953,736	△ 423,714	△ 308,159	△ 204,849	△ 451,833
<b>消費収入の部合計</b>	<b>7,725,442</b>	<b>8,379,291</b>	<b>7,858,508</b>	<b>8,511,250</b>	<b>7,709,419</b>

●消費支出の部					
科 目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
人件費	6,746,319	6,212,382	5,851,321	6,220,850	5,913,750
教育研究経費	1,960,866	1,914,122	1,909,723	1,858,820	1,885,261
管理経費	460,866	730,247	425,029	622,004	361,218
借入金等利息	9,035	7,453	5,870	4,288	2,705
資産処分差額	83,004	16,240	36,114	64,397	45,855
<b>消費支出の部合計</b>	<b>9,260,090</b>	<b>8,880,444</b>	<b>8,228,057</b>	<b>8,770,359</b>	<b>8,208,789</b>
当年度消費支出超過額	1,534,648	501,153	369,549	259,109	499,370
前年度繰越消費支出超過額	7,511,165	9,035,533	9,382,250	9,751,799	10,010,909
基本金取崩額	10,280	154,436	0	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	9,035,533	9,382,250	9,751,799	10,010,908	10,510,279



(単位：千円)

貸借対照表					
●資産の部					
科 目	20年度末	21年度末	22年度末	23年度末	24年度末
固定資産	28,730,208	28,639,014	28,037,263	27,373,143	27,088,166
流動資産	4,725,940	4,235,569	4,366,395	5,078,625	4,820,726
資産の部合計	33,456,148	32,874,383	32,403,658	32,451,768	31,908,892
●負債の部					
固定負債	1,743,175	1,694,883	1,411,651	1,090,525	1,090,408
流動負債	2,220,185	1,764,152	1,638,048	2,061,544	1,566,322
負債の部合計	3,963,360	3,459,035	3,049,699	3,152,069	2,656,730
●基本金の部					
第1号基本金	37,739,857	38,009,016	38,317,081	38,521,855	38,973,223
第3号基本金	138,464	138,582	138,677	138,753	139,218
第4号基本金	650,000	650,000	650,000	650,000	650,000
基本金の部合計	38,528,321	38,797,598	39,105,758	39,310,608	39,762,441
●消費収支差額の部					
翌年度繰越消費支出超過額	△ 9,035,533	△9,382,250	△ 9,751,799	△10,010,909	△ 10,510,279
消費収支差額の部合計	△ 9,035,533	△9,382,250	△ 9,751,799	△10,010,909	△ 10,510,279
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	33,456,148	32,874,383	32,403,658	32,451,768	31,908,892

## (3) 主な財務比率の推移

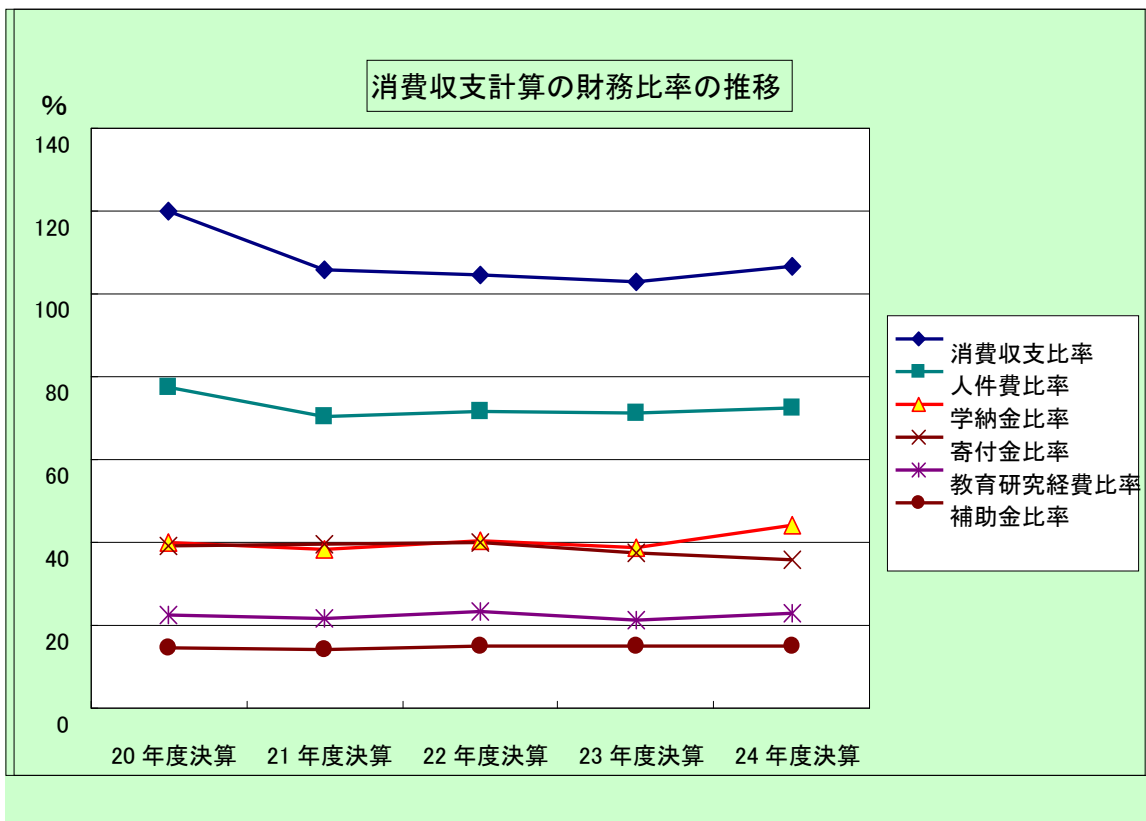
主な消費収支計算書関係比率と貸借対照表関係比率の過去5年間の推移を掲載し、一部の比率についてグラフにより概要を説明します。

(単位：%)

比 率	算 式 (×100)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	77.7	70.6	71.6	71.4	72.5
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	195.5	183.3	177.9	183.3	164.7
教育研究費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	22.6	21.7	23.4	21.3	23.1

管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	5.3	8.3	5.2	7.1	4.4
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.1	0.1	0.1	0	0
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	△6.7	△0.9	△0.8	△0.6	△0.6
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	119.9	106.0	104.7	103.0	106.5
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	39.8	38.5	40.3	38.9	44.0
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	39.3	39.4	40.1	37.3	35.8
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	14.5	14.3	15.0	14.8	14.8
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	88.2	89.5	90.6	90.3	91.7
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	212.9	240.1	266.6	246.4	307.8
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	13.4	11.8	10.4	10.8	9.1
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	98.6	98.9	99.2	99.4	99.7

「総資金」は負債＋基本金＋消費収支差額を、「自己資金」は基本金＋消費収支差額をあらわす。



消費収支比率は100%を恒常的に上まわり、24年度では6.5ポイント上まわりました。人件費比率は21年度から横ばい状態ですが、24年度は1.1ポイントのアップとなりました。学生生徒等納付金比率（学納金比率）は学生生徒等納付金が増加し、寄付金が減少したことにより、24年度は5.1ポイントのアップとなり、寄付金比率は1.5ポイントのダウンとなりました。教育研究経費比率は1.8ポイントのアップとなりました。補助金収入は昨年度より減額となりましたが、比率は同率となっています。